

課題対応取組み報告書

【共通】

名称	山王地域総合相談窓口（ランチ）
提出日	6 年 6 月 11 日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☐ 地域や専門職とのつながり等	☒ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	続～地域住民が主体的に参加できる活動を通じて総合相談窓口の周知を図る	
地域ケア会議から 見えてきた課題	1.ひとり暮らし高齢者の支援では、複数の課題があり支援が長期化する。認知症の早期発見ができて、介護サービスにつながらず症状が悪化してから介入となり地域での支援が困難になる事が懸念される。 2.依存症、生活困窮、不適切な金銭管理があり、介護サービスを利用した安定的な地域生活に移行するまで粘り強い支援と地域の協力が求められている。	
対象	地域関係者、地域住民	
地域特性	昔ながらの建物・風景や長年居住されている住民同士の近所付き合いも残っている。その一方で生活保護受給の高齢者独居世帯では、町会に入らず、身寄りがなく、孤立し、意欲低下と健康状態の悪化という悪循環がみられ、孤独死もある。	
活動目標	山王地域総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）が、気軽に相談できる身近な窓口として「地域に根ざした居場所の一端を担う拠点」であること。	
活動内容 （具体的取組み）	ポストコロナの中、地域活動が徐々に動いている。ランチとしても地域活性化のため積極的に企画展開した。 ①「東部包括フリースクール」（以下「包括」という）を活動の柱として位置づけてきた。 ②居場所づくりとしての「ふれあい」には歌、手芸、芝居など多様なニーズに対応すべく6回開催した。 ③山王ポッチャクラブは百歳体操の同日開催で定着してきた。ポッチャ大会にも参加が広がった。 ④みどりカフェを月1回開催。の地域住民ボランティアによる「みどり苑地域清掃」の後、将棋、麻雀を用意し喫茶も実施した。 ⑤山王ランチ「みんなの足湯ひろば」を休止し、ふれあい喫茶を拡大。ボランティア参加が増えた。焼き菓子を提供し交流の場を拡大した。 ⑥山王・飛田の各地域関係者へ山王、飛田各ふれあい喫茶内で相談窓口の設置が定着。地域関係者が専用コーナーを設置していただいた。 ⑦外国人との共生において良好な関係性作りのため、日越支援会と地域の高齢者との交流の場を持った。 ⑧車椅子体験会～街歩き編～は前年度の取り組みの発展型としてスタンプラリー形式の街歩きを実施した。	
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	①山王地域以外での活動の場がフリースクールを通して少しずつ拡大した。とりわけポッチャ大会や体力測定への参加が繋がった。支援者間の連携も進み共同して会の活性化を図ることが出来た。 ②手作り、うたごえ、お芝居など講師や演者も運営する側もボランティア参加による開催が出来てきた。多様なニーズに応え、のべ116名の参加を得た。 ③月2回の百歳体操と山王ポッチャクラブが定着し、平均18名の参加を得た。 ④地域清掃には認知症状のある方の参加も得、他者交流のきっかけとなり居場所の人一つとして定着した。清掃の跡の「将棋の日」にボランティアの参加を得た。 ⑤「ふれあい喫茶」は毎月1、2回開催。焼き菓子提供は好評を得、のべ159名の参加を得た。 ⑥山王・飛田ふれあい喫茶の相談窓口の設置から地域の取り組みの周知、来客との交流りができ顔の見える関係性を形成した。 ⑦関西大阪芸術祭企画としてベトナム人NPO団体と地域の高齢者のワークショップと1日レストランを開催し50名の参加を得た。高齢者からもベトナム人参加者からも「楽しかった」と相互の活動を評価しあうことが出来た。 ⑧車椅子体験会には山王こどもセンター、地域住民の参加を得、スタンプラリー形式で商店、銭湯などの協力を得、地域住民、高齢者と子供の交流から障害理解と町の環境の見直しにつながった。	
今後の課題	ふれあい喫茶や居場所づくりを拡大してきた。みどりカフェは月1回か居場所拡大と支援者参加も呼びかけ活性化に繋がっていきたい。またカラオケのニーズに答え集会所を利用したカラオケ倶楽部を創設し多様な居場所づくりをすすめたい。様々な企画を支援者との関係づくりの糸口とし、地域を巻き込みながら孤立解消に向けた支援につなげてゆきたい。それぞれの企画に地域住民ボランティア参加を呼びかけて、支える側も参加する側も「楽しい」と感じられるボランティア活動の場としてゆきたい。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月22日(月)	
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	ふれあい喫茶は特に参加者が多く、ふれあい喫茶の相談窓口が定着し、地域の取り組みの周知や、参加者、ボランティアの交流ができ、顔の見える関係性の形成に寄与している。地域関係者と協働し、周知を図れていることが高く評価できる。	